

受験（受検）の方法について

11月も終わり、冬の足音が聞こえる時期になりました。詳しくは先日の校内説明会でもお話ししましたが、この号では受験方法についてもう一度説明しておきます。

受験方法には次のいくつかの受験（受検）方法があります。

- 私立 → 推薦入試・一般入試・オープン入試
- 公立 → 共通選抜・定通分割選抜

受験（受検）校の決定については学校だけでなく受験方法も含めて、優先順位や専併（専願か併願か）、試験日程などをきちんと考えておいてください。

① 私立・推薦入試

主に調査書と面接で選考します。基本的には自己推薦ですが、中学校長との面接を経て、人物的に「推薦」できると判断され、中学校からの推薦書を発行した場合に出願できます。条件は一般入試よりも厳しいです。試験日は1/22（日）または23（月）です。

スポーツによる受験は推薦ではなく一般受験（専願）の扱いになることが多いです。

② 私立・一般入試

主に調査書と面接と筆記試験での選考です。但し、筆記試験で点数が悪い時や（入試当日も含めて）生活面が乱れていた生徒などは不合格になることもあります。今年度は書類選考型の入試が増えてきました。

この受験方法の県内の大半の高校は12月中旬から中学校と高校間で行われる「進路相談」で受験資格が得られた場合に受験できます。成績だけでなく欠席や遅刻・早退日数などの高校から示された条件をクリアする必要があり、英検などで有利になることもあります。進路相談後の変更は基本的にできませんので、第2希望でも入学する可能性があるわけですから、経済的な部分も含めて保護者と責任を持って決断してください。

※ 「併願」とは…？

一般受験で複数の学校（公立高校も含む）を受験するときに、「第2志望」以下が「併願」となります。その学校が第1希望なら専願、受験する私立高校が第2希望なら併願といえます（もちろん公立高校が第2希望以下の場合もあると思います）。行きたい本命の高校のみ受験するのが「専願」です。

（裏面に続きます）

### ③ 私立・オープン入試

学力重視で基本的に調査書が選考の対象にならず、原則として筆記試験のみの選考です。当日の試験に強い人はチャレンジするのもいいでしょう。ただ私立はオープン受験や進路相談を経ない受験のみという受け方はお薦めしません。尚、一部の学校では進路相談を経て受験資格を得た学校ではオープン受験を受けられない場合がありますので、担任の先生に必ず確認してください。またオープン受験とは違い入試相談を経て一般コースなどに受験資格を得た場合、特進コースなど、より難関のコースにステップアップする受験もあります。名称はチャレンジ受験・スライド制度など各校でさまざまです。

### ④ 公立・共通選抜

主に調査書と筆記試験での選考です。専門学科では面接や実技試験を、一部の学校では応用力や専門技術を測る特色検査を伴う場合があります。選考方法や各項目の比率などは以前に配った募集案内（ラベンダー色の表紙）を参照してください。横浜市立・川崎市立の普通科高校には原則として学区外の制度が残っているため、定員に限られるので注意してください。

第一次選考は定員の90%を学習の記録・筆記試験・面接（・特色検査／実技検査）などで総合的に選考します。学校によっては特定の教科の点数を重点化する場合があります。残った10%は第二次選考として、主に筆記試験と面接の点数などで選抜します。学力検査に強い人は有利になりますが、逆に弱い人は不利となります。

### ⑤ 公立・定通分割選抜

定通分割選抜は定時制や通信制の定員の一部を募集するものです。下記のように定時制でも他部制の場合は分割選抜を行わないので注意をしてください。

\* 共通選抜のみの募集      横浜明朋・県川崎・厚木清南・相模向陽館・市横浜総合

### ⑥ 二次募集

公立高校専願の人で公立高校が不合格となり、まだ進路が決まっていない人のために3月になってから行われる入試です。私立高校は全ての学校で実施するわけではなく、募集する人数は若干名と少ないので、あくまでも緊急事態のものと考えてください。また私立高校の二次募集は公立高校の合格発表日後すぐ出願締切となる場合が多いので、保護者も含めて迅速な対応が求められます。

公立高校については、定員に満たなかったときのみ臨時に募集するものなので、必ず募集されるわけではありません。また公立高校の二次募集は私立高校に合格している場合は受検資格がありません（合格した私立高校を辞退しての受検もできません）。定通分割選抜との併願（ダブル出願）は可能です。

従って公私立とも始めから二次募集を想定しての受験はお薦めしません。